

外部評価結果総括表

事業所名	グループホーム おり姫
評価確定日	2007年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人HEART TO HEART

I 運営理念

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
運営理念・運営理念の啓発	3	3	0	0

運営理念は、「利用者のみなさんの、一人ひとりの笑顔を大切に、笑いのたえないおり姫を目指します」理念は、職員とのホームホールの裏に書き込んである。管理者は、職員に「イライラしているときは、トイレの中で気持ちを落ち着かせて、名札の裏の理念を見なさい」「入居者と家族が満足されるには、顔色・表情を見て接する事が大切」と話している。職員からも、「自分自身が笑う事が大事」「入居者の方が楽しく笑って過ごせる事が生きがいになる」と話す。法人のホームページの中で、概要を知らせたり、イベントなどで、おり姫の1日の生活の様子や流れを情報発信している。

II 生活空間づくり

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
家庭的な生活環境づくり	4	4	0	0
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6	6	0	0

入居者と共に入居したアヒル犬の好太郎と猫のミーを飼っている。玄関の軒には、ツバメの巣もある。ガラスの面引き戸を開けると広い玄関スペースがあり、正面に低いカウンター事務所があるので来訪者がすぐ分かり応対がしやすいつくりである。玄関を中心として、東・西二つのユニットに分かれているバリアフリーの平屋建てである。二つのユニット間は行き来が自由で入居者は気に入った場所を過ごすことができ、隣のユニットを訪問した家族とも馴染みの関係があり談笑する光景が見られた。廊下、トイレ、脱衣所、お風呂場にも手すりがついている。現在車いすの方が6名であるが、ゆとりあるバリアフリーの空間であるため、車いすでも問題はなく日常生活を送っている。退院直後は、以前職員が使用していた簡易ベットの居間におき見守りを強化したり、主治医から意見書を書いてもらい、必要な方には、訪問リハビリの支援を行っている。

III ケアサービス

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
ケアマネジメント	7	6	1	0
ホーム内でのケアの支援	9	7	0	0
生活支援・ホーム内生活拡充支援	2	9	0	0
医療・健康支援	7	2	0	0

リュックが大好きで背負って入居された方は、今でも毎日背負っているなどその人の習慣や生活歴を変えないよう支援している。ビール好きな方は居室内の冷蔵庫に冷やしてあり飲みやすい。部屋に入られるのが嫌な方には鍵を渡して自分で錠錠できるような支援している。外には畑があり、入居者と野菜を育て収穫している。1日中ホーム内を移動している方が、外に出る姿をみると、止めるのではなく後について散歩に付き添っている。入居者が重度化したときの家族の意向を事前に確認して、ホームでの看取りを2例行っている。人工肛門の方の入居も支援している。入眠導入剤は、減らしていく方針を探っている。排泄は自然な形でできるようなことへの思いから、入居時オムツだった方を1年かけて、布パットにパットに変更できるよう取り組んでいる。食事を作る時間を入居者と接する時間に費やして欲しいと考えて、副食は外部委託して、ご飯と汁物と盛り付けをホームで行っている。月に1回は、献立から食材の買い出し調理をして、家族と一緒に食事を食べる機会を設けている。介護計画の随時見直しはされているが、計画表の更新記録が遅れている面は改善が求められる。

IV 運営体制

領域	評価項目数	できている項目数	改善が必要な項目数	判断が不能な項目数
内部の運営体制	11	11	0	0
情報・相談・苦情	2	2	0	0
ホームと家族との交流	3	3	0	0
ホームと地域との交流	5	5	0	0

管理者は、代表からの信頼も厚く運営を任されている。毎日日報等をメール送り意見交換している。管理者は各ユニットリーダーに任せてユニット間をフリーで動いている。職員が管理者に相談しやすい雰囲気があり、相談も受けている。職員は家族を自分たちの親戚だと思つて接するようにしており、月1回の食事会、3ヶ月に1回の家族会で交流を深めている。車いすの方が6名に増え、重度化が進む中、法人代表も人材の確保の必要性を感じており、ホームペーjジ等で職員を募集している。「子ども110番」「介護無料相談室」の看板を掲げホームから地域への還元にも取り組む、代表の考えである地域の方にもっと知ってもらうために、外出時には、ホーム名と電話番号が書いてあるおそろいのジャンパーを着用している。町内会に加入して、行事に参加をしたり、ホームの敷地内で夏祭りを開き地域の方、小学生、ボランティアと交流を深めている。

講師(全体を通して)

歯科医院を経営している法人代表は、地域で高齢者が暮らしやすい生活をサポートしたいと考えて、「さわやかサービス」を手始めに、デイサービス、グループホームを各2事業運営している。現在もユニットのグループホームの開設準備をしている。おり姫は2件目のホームで3年目に入る。幹線国道沿いには飲食店・喫茶店・大型薬局が並びそこから50メートルほど入る。周りは住宅に囲まれ、道を隔てずに、スーパー「ユーストア」があり、西側には「熊野神社」があり立地条件に恵まれている。開所当時から町内会に入ったり、家族会を開いたりして、地域、家族との交流を大切にしている管理者、職員の思いが伝わる。今年度から2ヶ月に1回運営推進会議を開き、町役場職員1名、消防署員1名、町区長1名、地主2名、協力者2名、家族代表2名の参加で実施している。運営推進会議をきっかけに、地域、家族との交流がさらに増し、地域に根付いたホームを目指して欲しい。3年目に入り重度化の中であたりまえの「普通の暮らし」「笑顔がたえない」暮らしを支援できるようにみんなが話し合い、地域、家族・職員がチームを組んで法人代表の目指す「開放的介護」を充実させていって欲しい。